

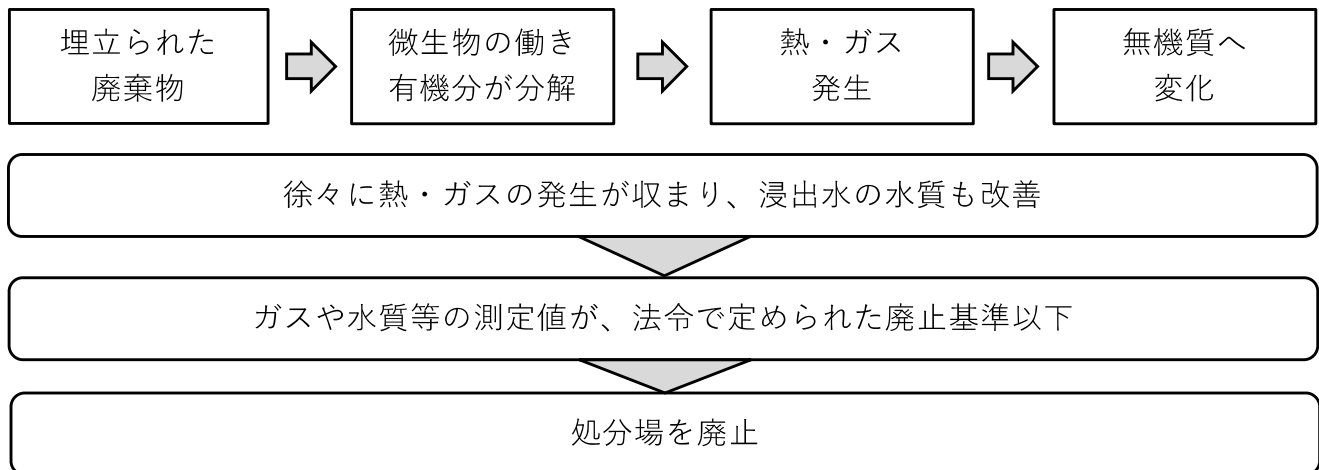
中園廃棄物最終処分場の廃止について

1. 中園廃棄物最終処分場の概要

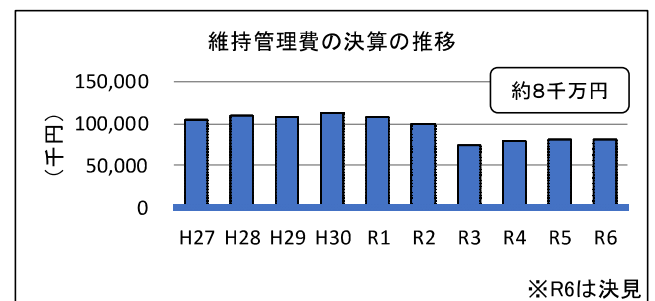
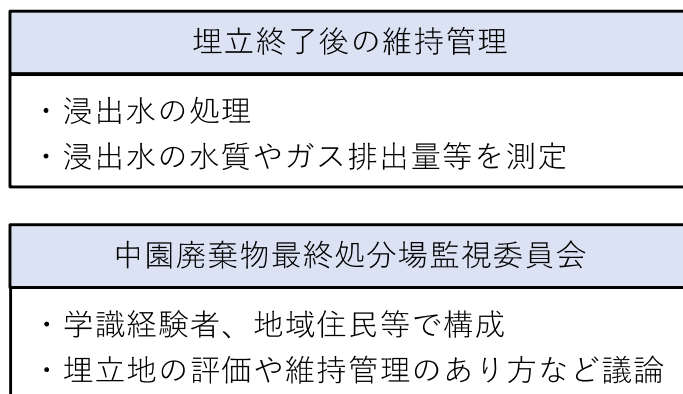
- 【埋立期間】 昭和 5 4 年 6 月～平成 1 5 年 6 月
- 【敷地面積】 1 6 5.8 ha
- 【埋立面積】 4 9.8 ha
- 【埋立容量】 6 6 0 万 m³（芳野処分場の約 4 倍）



2. 廃棄物の安定化プロセス



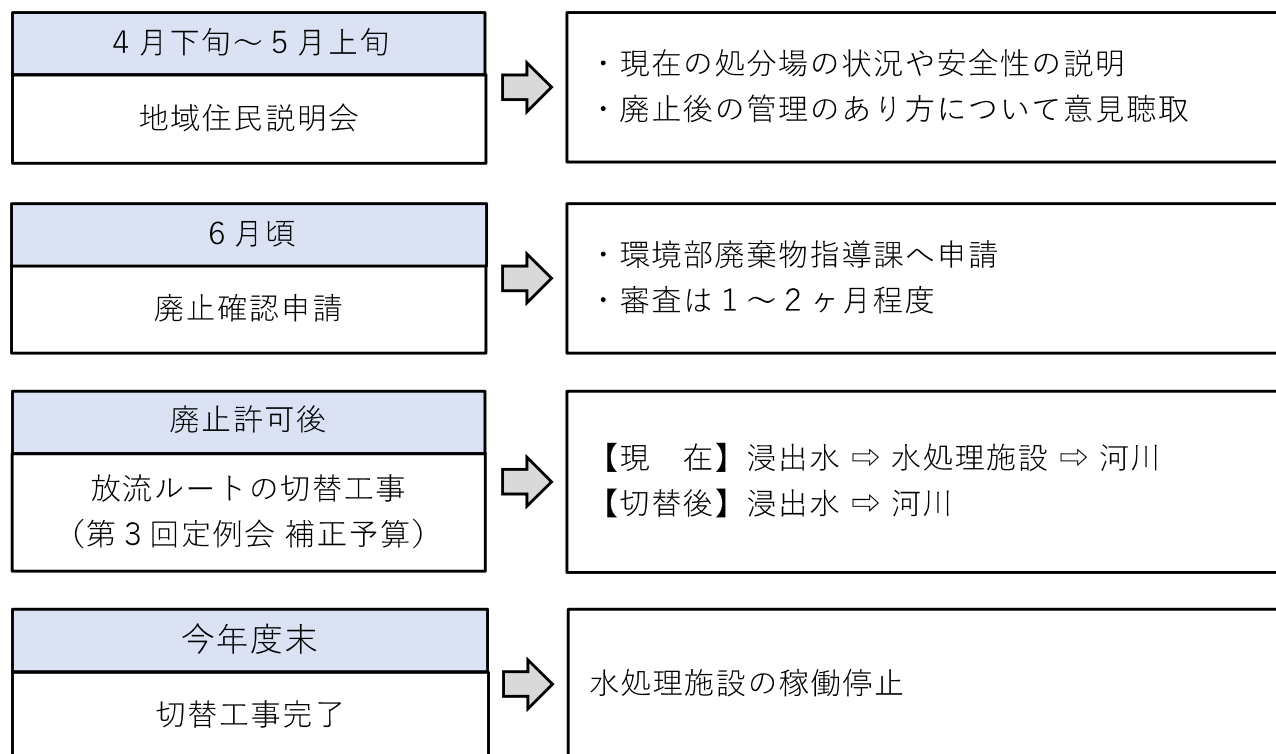
3. 埋立終了後における中園廃棄物最終処分場の監視・管理体制



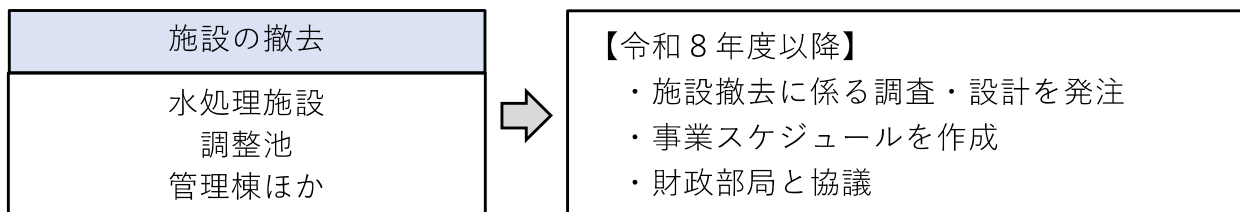
【令和 7 年 2 月】 測定結果が廃止基準を満足

【令和 7 年 3 月 1 4 日】 附属機関会議の結論
現在の状態まで埋立地が安定化していれば、廃止しても問題ない

4. 廃止に向けた手続き



5. 廃止後の対応



水処理施設



調整池



管理棟



引き続き、地元と協議しながら廃止後の管理のあり方や復元方法について検討

中園廃棄物最終処分場の現況に係る説明会について

I 開催概要

説明会場	嵐山中央会館（第1集会室）	江丹別公民館（多目的ホール）
開催日	令和7年4月26日（土）	
時 間	11:00～12:10	13:30～15:00
参加人数	12人 （地域住民6人 地域外6人）	19人 （地域住民13人 地域外5人 報道1人）

II 説明の概要（両会場共通）

■ 廃棄物最終処分場の中で起きていることと中園の現状

（北海道大学名誉教授〔附属機関会長〕松藤 敏彦 氏）

1 埋立地の典型的な環境問題

過去の環境問題、途上国の状況、埋立地のしくみ（嫌気性・準好気性）
→ 埋立地問題の根本的な原因は、有害物質（毒性）と有機物（ガス発生・悪臭）

2 中園最終処分場のこれまで

監視委員会設置の経緯、埋立当時の状況（ハエ・カラス等）、安定化促進工事等

3 処分場内でどんな現象が起きているか

準好気性埋立地における空気供給のメカニズム等

4 廃止とアフターケア

- ・ 廃止：廃棄物処理施設ではなくなる。（管理〔水処理〕が不要になる。）
- ・ 廃止基準の主旨 ◎周辺環境に影響を与えてない ◎埋立地内部が安定化している
- ・ 廃止基準（埋立地内部の安定化に関する項目）
①保有水が排水基準を満たす。②ガスの発生がほとんど認められない。
③地中温度が異常な高温でない。

5 廃止に伴う対応の変化

- ・ 保有水 → 廃止した場合は水処理を終了
- ・ ガス → 廃止の如何に関わらず特段の対応はなし
※ 環境影響があるから処理を行う。非処理＝環境影響がないと整理。

6 中園処分場の浸出水データ、排水基準

自主基準値を改定したことで廃止が現実化。法定基準であれば埋立終了後5年程からほぼ基準を満たしている。※現在5年以上連続で基準達成（処理不要）の状態。（基準は2年）。

7 ガス抜き管のガス流出量・埋立地内の温度

- 元々処理をしていない（つまり現時点でも環境に影響がない）ガスや地中温度を厳しく評価して廃止を延ばすのは無意味。次のとおり評価して安定化していると判断。
- ・ ガス抜き管97本中9割以上がガス流出がない状態（0.1m/s 未満）。5本程度流出はあるがほぼ空気。→ 有機物の分解はほぼ終息していると評価。
 - ・ 内部温度の季節による変化は、分解ガス流出がほぼなく外気温の影響のみを受けている状態と評価。

8 結論（欧米には廃止はない）

- ・ 廃止によって全てを終了すると考えるので、評価が厳しくなる。
- ・ 中園においては、廃止によって水処理は停止するが、廃止後も最小限のアフターケア（モニタリング）を継続することも踏まえて評価する。

■ 中園廃棄物最終処分場における廃止後の管理について

（旭川市環境部）

- 1 水処理施設を経由しない排水ルート切替工事の実施。（廃止確認年度）
- 2 継続する環境調査（浸出水、発生ガス、地中温度）の内容。
- 3 敷地管理（草刈り・除雪）の内容説明。
- 4 施設撤去の内容（スケジュールは廃止確認翌年度に策定の旨）説明。
- 5 跡地の復元は、今後地域と協議して決定する旨説明。
- 6 廃止確認を以て、中園廃棄物最終処分場監視委員会の設置期間を満了とする。

Ⅲ 意見交換・質疑

■ 嵐山中央会館

意見・質問等なし

■ 江丹別公民館

1 31 頁の SS に関して、江丹別川の雪解け時等の SS はどの程度か

→ 永見橋（江丹別川） 4 月 5mg/L、5 月 1mg/L、6 月 3mg/L

新生橋（ウップツ川） 4 月 25mg/L、5 月 14mg/L、6 月 4mg/L

石狩川浄水場取水口 4 月 13mg/L、5 月 9mg/L、6 月 6mg/L

※ 排水基準：希釈されて環境基準を満たすという考え方で、環境基準の概ね 10 倍。

参考 中園処分場の年平均排水量は、江丹別川の渇水期の水量と比較しても 100 分の 1 程度である。

2 附属機関会議では、万一の場合に備えて下流調整池撤去を施設撤去の最終工程で行うこととしていた。資料にその旨の記載はないが、変更したのか。

→ 変更はしていない。資料にもその旨を明記する。

3 跡地の利用に関して

- ・ 安定化(閉鎖)に向けてこれまで行ってきた様々な取組が記録として残るような状態になることを望む。

- ・ モエレ沼公園を数回視察した。イベント会場などもよいのでは。

- ・ 跡地利用に関しては、安定化を最後まで見届けてから検討すべき。

→ 跡地の利用は、今後地域と協議しながら検討を進める。

4 大阪万博(元処分場)で騒がれている、メタンガスに関して

→ 万博会場の一部は直近まで埋立を実施。中園は埋立終了から 20 年以上経過し、ほぼ安定している。覆土もしっかりしているので地盤も問題ない。

→ メタンガス自体は牛のゲップや湿地など自然界に普通に存在しており特殊なものではない。万博の爆発は、地下の閉鎖空間で起こった。開放空間である中園で爆発は起こりえない。

5 一時期中園周辺で硫化水素臭の問題があった。硫化水素の発生はどの程度の期間で終わるのか。

→ 硫化水素は嫌気性状態で発生。中園ではガス抜き管により埋立地内部への空気の出入りがありその心配はない。実際の計測でも硫化水素はほぼゼロと言っていい値。

■ 結果

1 嵐山会場

異議等はなく説明内容どおり進めることで理解を得られた。

2 江丹別会場

廃止に対する理解は得られた。廃止後の管理は、資料を一部訂正(下流調整池の記載)し、市民委員会の確認を得た上で進めることとして理解を得た。

Ⅳ 今後の対応

■ 地域住民に対して、改めて結果報告等について「処分場だより」を配布し意見等を求める。

■ 一般市民に対し、結果報告、説明会資料、廃止後の維持管理について（最終版）を後日 H P に掲載し廃止について意見等を求める。

■ 上記による意見を踏まえ、廃止の可否を判断する。